

令和2年度メンター交流会 振り返り

記載方法について ➡ は学生の意見を表す。

第1回

1 自分の考えと居場所の考えが異なる場合はどうしたらいい？

(自分は、子どもたちとの関係性ができてから叱ることをしたいが、居場所スタッフからは注意を促すように言われている。)

(メンター)

指導を行うのは、全体をまとめるべき居場所スタッフがやるべきことであるが、その居場所の方針や何に重点を置いているのかを話し合う必要があるのではないか。学生の立場から感じた、子どもたち個人個人の特性をスタッフと共有することは重要であるし、学生の考えをスタッフと共有することも重要である。そこから学生と居場所スタッフのコミュニケーションも深くなり、学びも大きいと思う。

時に、子どもたちと居場所スタッフの板挟みにあうこともあるかもしれないが、その際は、「居場所スタッフが言っていることはこういうことだと思うよ」「さっきスタッフさんが言ったことは、あなたにとって、こういうことが役に立つと思うな」という感じで、通訳・橋渡し役になることも必要かもしれない。

板挟みにあって困っているときは、「私困ってます！」とスタッフや子どもの双方に正直に言っている。

2 子どもたちから取り合いになってしまった時はどう対応したらいいか？

➡ 1対1の遊びじゃなくて、皆で遊べる遊びをするようにしている。「今はその遊びしたくなくて、みんなで〇〇したいんだ。」「何々したい人集まれ〜！」と全体に声掛けする。

(メンター)

子どもに正直に言う。「私は皆を平等に見ないといけない立場なの。あなたのことも大事に思ってるんだけど、時間を決めて遊ぼうか、協力してくれる？」

あなたが活動している居場所の特性として、愛着にケアが必要な子どもたちも多いと思うので、全体で遊んだ後に、その子だけの時間を少しでも設けるといいのではないか。

3 誰に対してもあたりが強い子には、距離を取った方がいいのかどうか分からない。

➡ 元気な子に対しては、「そんなこと言われたら傷つく」など正直に言う。または、関係性を深めるためにそのままにせず、一歩踏み込んで、「いやだったの〜？」みたいに声掛けして、放置しないようにする。

(メンター)

ある支援員さんから、「あたりが強い言葉を、他の言葉に変換して受け取るようにしている」と聞いたことがある。「うるさい！」⇒「おはよう！」という感じで、その子の表現方法の違いと捉えることもできる。

あなたの通っている居場所の特性を考えると、虐待を受けたり、愛着に課題がある子どもたちもいるかもしれない。例えば虐待を受けたことがある場合だと、防衛本能で、他人に対していつでも臨戦態勢のお子さんがある場合もある。また、家で常に命令形や指示形で言われていることも想定されるので、「～して」といわれて反抗する場合は、「ここ(居場所)にきてまでそんな言われ方するのか」という思いが背景にあるかもしれない。そうした時は、「～してくれる?、～してくれない?」と、お願いする形で接すると良いと思う。

いい大人・信頼できる大人のモデルを学んでもらう意味合いもあるので、きつく言われても、丁寧に対応することが重要である。子どもであっても、丁寧語を使ったりして、いい大人の対応を見せるようにしている。

個々の学生さんのキャラに合わせて、学生さんにとっても無理のない対応ができるといい。

4 教員を目指しているが、スクールソーシャルワーカーさんと教員の連携の仕方について聞きたい。

(メンター)

スクールソーシャルワーカーとして、先生にさせていただいてありがたかったことは、対等な立場で子どもたちの話が議論できたこと。さらに、子どもたちを支援するために連携が必要な色々な機関(教員やスクールソーシャルワーカー、支援員など)をまとめるコーディネーター役の先生がいるととても助かる。そして、その子のために真剣に一緒に考えてくれる先生だととても助かる。

5 保健師と関わったことはあるか。

(メンター)

保健師さんとの関わりも多い。未就学の児童がいる家庭は特に保健師さんの力が大きい。医療従事者という立場から多子世帯への家族計画のアドバイスや医療機関との連携を取ってくれたりして、とても助かった。シラミの問題を抱える家庭も多いが、保健師さんが洗髪指導を行うなど、家庭支援と一緒に携わってくださっている。』

6 社会福祉士の資格はどのように取ったか。

(メンター)

社会人入学で福祉系の大学に編入し、仕事をしながら通って2年間のプログラムで取得した。

7 メンターから学生さんへメッセージ。

(メンター)

学生さんが子どもたちのためにボランティア活動してくれるのはとてもありがたい。大人とは異なる立ち位置で子どもたちと接することができ、子どもたちからもすごい人気もある。学生さんの力はとても大きいし、若いうちにしかできないことも沢山あると思うので、それを大事にしながら過ごしてほしい。

第2回

1 子どもたちと遊ぶとき、全力で遊んでもいいのか悩む。

(メンター)

基本的には、全力で楽しむ。全力でぶつかっていく。経験を積むと、全力で楽しみながら俯瞰することができるようになる。この場所は危険だな、とか、あの子は友達がいらないな、など、経験に基づいて見えるようになってくる。手を抜くと、子どもはわかる。「この先生、どんな先生かな」と試し行動にでたりする。怒り方、笑い方、自分への接し方、全て見ている。居場所の子は複雑な家庭の子が多いので、特に人の心を読み解く力が強いと思う。

2 子どもと接するとき、「近所のお姉さん」のような立場で接しているが、叱りたいときに叱れない。注意しても、本気に受け取ってもらえない。どうしたら「お姉さん」的な立場でもしっかり注意できるのか。

(メンター)

基本、人は上も下もなく、フラットな関係だと思う。ただ、危険な時には、声をはりあげてよい。また、「叱れなく」ても良いと思う。アドラーの「嫌われる勇気」のように、注意するときは毅然とした態度が必要である。子どもたちにとっても、「危ないからしっかり注意する」ことは大事だと思う。逆に、注意できなくて危ないことになってしまったら、もっと落ち込んでしまうのではないか。まずはしっかりと注意ができる学生になる。遊ぶときは遊ぶ、メリハリをつけると、子どもたちは「この人は本気で自分と向き合っている」と感じる。どっちつかずだと、子どもが逆に学生に気を遣っている場面も見たりするので、「素を出していい」と助言することもある。子どもは嫌わないので、叱るときは叱ってほしい。

3 男の子とどのように関われば良いのか。

(メンター)

基本は、男性も女性もない。学生側が無意識に男女の違いを感じているのだと思う。そのままよい。100%のありのままの自分を出して、子どもたちにぶつかっていけばよい。そうすると子どもたちもわかってくれ、普通に接してくる。失敗をおそれないでほし

い。みんな育った環境が違うので、怒る場面も違う。また、学生側が後から「自分の怒り方が違っていただけ」と感じた場合、子どもに謝ることも大事。さらに、子どもに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることも大事。そうすると、子どもも満足感を得られる。動いていけば、子どもの波長と合っていく。

弱みを見せるのもすごく大事。学生の弱みを見て、子どもたちが共感することもある。

4 居場所職員はボランティアに何を求めているのか。自分たちが子どもと遊んでいるとき、職員は何を考えているのか気になる。

(メンター)

学生にはすごく感謝していると思う。職員は学生よりも俯瞰して子どもを見ていると思う。居場所の活動時は、職員のことはあまり考えなくてもよい。目の前の子どもと向き合ったらよい。

5 居場所職員は、「子どもの遊び」以外に、どのような仕事をしているのか。

(メンター)

- ・子どもたちの記録表を作成し、市等に提出している。
- ・毎日の記録を職員で共有および整理
- ・月1回の保護者だより（保護者への報告）
- ・ボランティアの活動記録
- ・その他雑務 など、様々な仕事をしている。

私が学生たちにボランティアを呼びかけた時、「この子たちが居場所の職員になってくれたらいいな」というビジョンがあった。ボランティア活動をしている学生が、将来的に居場所職員として活動するのも良いと思い、年に2回、学生ボランティアと交流する機会をもった。すると、卒業後、学生ボランティア出身の子が少年指導員として居場所に入った。今後、正職員の希望を出している人もいる。学生ボランティアの4年間の経験はすごく大きい。

6 子どもたちが、ルールがある遊び等について言い合いになったとき、どこまで学生ボランティアが口を出したらよいのか。

(メンター)

ケースバイケースだと思うが、ルールがあるものに関しては、さくらの場合はすべて子どもたちの意見を反映して話しあい、決をとっている。また、目標を決めるのも子どもたちで決める。全てに通じるが、子どもの意見は聞くべきだと思う。聞いたうえで、ルールに従うかどうか、助言してはどうか。子どもの話を9割がた聞くことが大事。

「アイ (I) メッセージ」(「私」を主語にする)という言葉聞いたことはあるか。多くの方は、怒るとき、「あなた (you)」メッセージが多い。「先生すごく悲しいな」など、「私はこう思った」などの伝え方(注意)をすると良い。

- 7 「学習支援」で派遣されているが、実際は遊ぶほうが多い。すると、「勉強したい」子が遊びに気を取られてしまう。どうやって勉強する子のモチベーションを保てるか。自主的に勉強をする場だが、横で他の子が遊んでいると、勉強が手つかずになる。

(メンター)

他の子が遊んでいるところから離れたような、部屋の隅などで、「まず 20 分勉強してから遊ぶ」など、場所とルールを一緒に決めて勉強する。「学生が気にかけている」と子どもに伝えることが大事。

- 8 居場所が「勉強を終わらせてから遊ぶ」というルールの中、集中力が続かない子がいる。1問解き終わるごとに一人遊びをするので、なかなか進まない。それに付き合うが、一人遊びが長すぎると切らないといけない。職員が声をかけるとやり始める。自分が付き合ってしまうのも悪いかもしれないが、どうしたらよいか。

(メンター)

いろんな発達の子がいる。先生たちも苦慮していると思う。例えば、二人でルールを決めるのはどうか。遊び始めたら、「3分やったらこの問題やろうか」など。ケースバイケースではあるが、自分の世界を持っている子を無理に引っ張るのもどうかと思う。

- 9 友達のプリントの答えを写している子がいる。どうすればよいか。

(メンター)

時々目はつぶってあげても良い。夏休みなど長期休暇などの宿題は、答えを写させる子がいる。そういう時は、担任の先生に「宿題の答えを写させました。ただし、掛け算の○の段は覚えさせました」などのお手紙を出す。宿題を写す(すべて埋める)ことで小さな達成感を得ることもできる。ただし、写すことがずっと続くと、問題になる。

➡ 「自分で解くように」と、声かけをする。その時は、一緒に解いてもらった。

(メンター)

宿題が目的ではなく、勉強するという姿勢が大切。なので、上手にもっていつている

- 10 ボランティア活動に行く時、どうやって気持ちを切り替えているか？学業がしんどい時とかに、自分よりも元気な子どもたちに会いに行くとき、どうやってスイッチを入れているか。

➡ 疲れていて、ボランティアに行くのがしんどい時もあるが、行ったら行ったで楽しかったりする。気合を入れるというよりは、「行ったら楽しいから行こう」という感じ。

➡ 行く前にちょっと眠っている。その日によって動く遊びに誘われたりするので、眠っておいて体力を温存する。

➡ ボランティアが「息抜き」と思って活動に参加している。

(メンター)

周波数を合わせる感じのイメージを持ってはどうか。だるい時などは、自分のテンションを上げるため、居場所に行くときの恰好をするなど、変えてみると良いのではないかな。

11 今後の活動の抱負

- ➡ 子どもたちが過去の家庭の事情などをさらっと話すことがある。子どもが悩んだり、苦しんでいる時、お姉さんの立場として、相談したいと思える存在、信頼できる存在になりたい。
自己肯定感が低い子が多いと感じる。ネガティブな考えをポジティブに変換して、「こういう考え方もある」と教えられるような存在になりたい。
- ➡ 今回学んだ「アイメッセージ」を活かして、子どもたちに寄り添う親密な関係のボランティアを目指したい。素の自分を出して、「当たって砕ける」勢いで、積極的にコミュニケーションをとっていききたい。
- ➡ 今日学んだように、全力でいきたい。また「完璧でいよう」としていた部分があったかもしれないので、弱みをみせつつ子どもたちと距離を縮めていきたい。家庭状況によって、態度が変わる子もいるので、察知して関わられるようになりたい。
- ➡ 何気なくボランティア活動に参加していたが、みんなの話を聞いて、「ボランティアってなんだろう」と考えようと思った。どうやって子どものためになるのか、など考えていきたい。子どもが興味をもつものに一緒に興味をもっていききたいし、それを極めていきたい。

(メンター)

子どもたちに、大学のことを子どもたちに教えてほしい。子どもたちの中には「大学」という概念がない。「大学生」の情報を教えてほしい。「大学楽しい」って言ってほしい。学びが人生を開く、と思っている。